

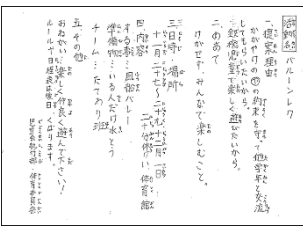
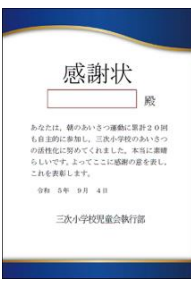
令和5年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立三次小学校	校長	大瀨 磨彦	生徒指導主事	陸田 良介
取組事例名	『主体的な児童会活動（児童会行事・常時活動）』				

1 取組の設定

取組を実施する意図及びねらい	取組を通して育てたい児童生徒像
・児童一人一人の自己指導能力の育成。 ・児童会行事や常時活動を仕組むことで、児童自身の主体的な活動を促す。 ・異学年交流の場を多く設定することで、児童同士の絆づくりにつなげる。	・児童会活動に主体的に参加しようとする姿。 ・児童同士が積極的にコミュニケーションをとろうとする姿。 ・場に応じて正しい判断をして実行しようとする姿。

2 展開

取組の具体的内容	取組の創意工夫
「児童会行事」⇒いじめ撲滅集会・お楽しみ会 よりよい児童会活動にしていくためのサイクルの確立 ① 課題発見・議題設定（必然性を問う） ② 話し合い（多様な意見を持ち寄る） ③ 合意形成（意見をまとめ、全体へ周知） ④ 決めたことの実践（役割や責任を果たす場） ⑤ ふりかえり（次へつなげる）  	児童にめあてをもたせるために ・児童会執行部から提案する際には、活動目標やめあてを設定させ、全体で共有を図った後、活動に移していく。 児童の意欲を高めるために ・児童の「やりたい」の声をなるべく実現していく。 ・職員が主として進めるのではなく、児童をサポートしていく立場に徹することで、「自分たちでやりきった」という思いを持たせる。 児童の頑張りを認め、価値付けるために ・児童会執行部が中心となり、あいさつ名人を選出し、表彰を行う。 ・職員が児童の良い姿を見取り、すかさず評価していく。
「常時活動」⇒あいさつ運動 ・週3日、児童が登校時間に児童玄関前に立って挨拶を行う。 ・児童会執行部が主として活動を行うが、他の児童も自主的に参加することができる。 ・児童・職員の見取りによるあいさつ名人の選出及び参加に対する感謝状の贈呈を定期的実施する。  	

3 成果と課題

「常時活動（あいさつ運動）」

児童の意識調査（過去3年間）を比較すると、「自分からあいさつをしている」と肯定的にとらえている児童は年々増加している。
（令和3年度1回目：71.8%⇒令和5年度2回目：87.8%）
継続した取組により、学校全体としてあいさつをする意識が高まってきた。

「児童会行事」

目的を明確化させたことで、方向性がぶれることなく、児童だけで円滑に進めていくことができ、児童の主体的な活動につながった。

活動時間を確保することに課題がある。家庭での課題にしたり、休憩時間を活用したりと、行事の準備には授業時間だけでは限界があり、指導の難しさを感じている。十分に見通しを持たせたり、内容を精選したりするなど、時間の活用の仕方を工夫する必要がある。

